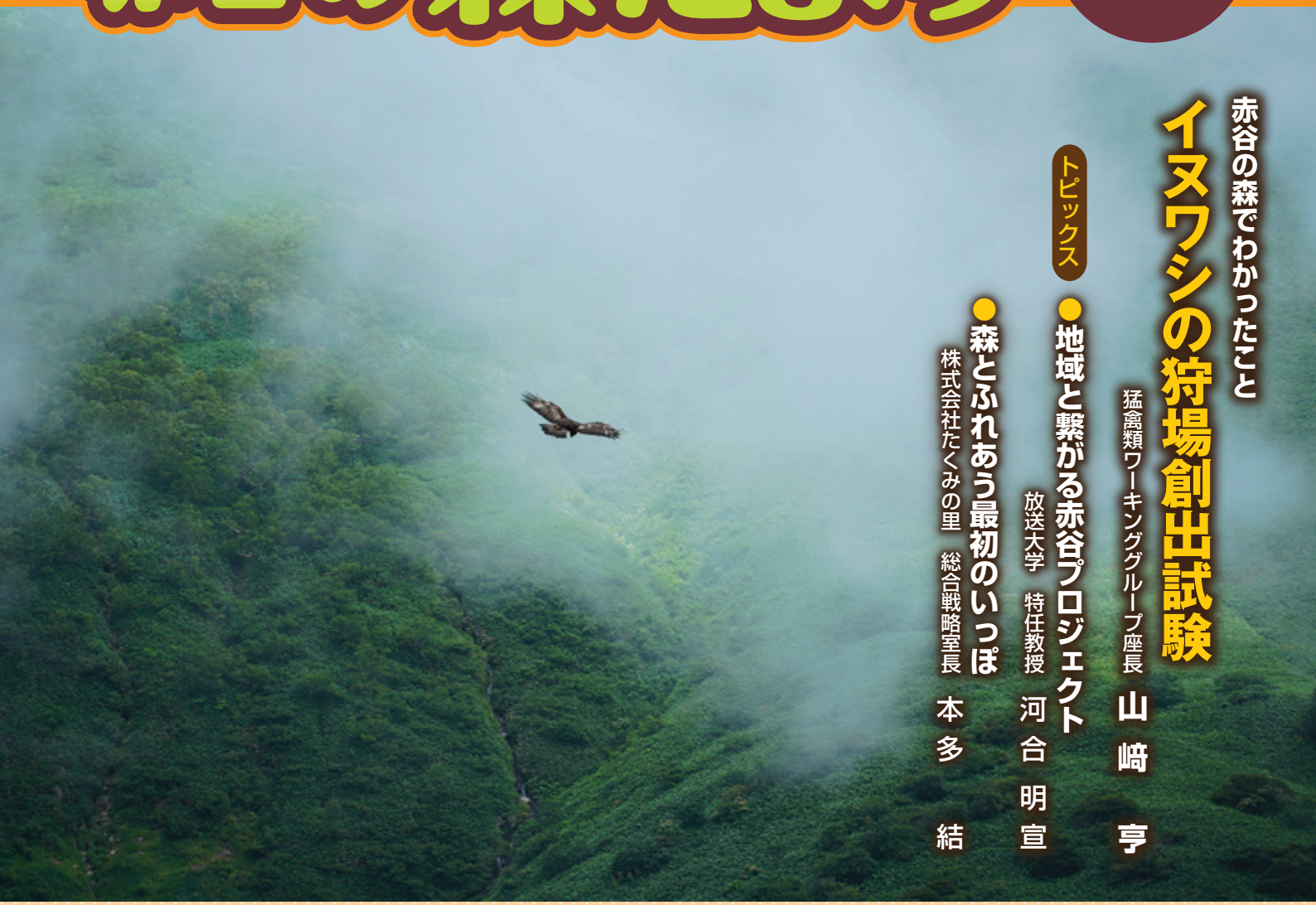
AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会／（公財）日本自然保護協会／林野庁関東森林管理局

赤谷の森だより

2021.3.1
vol.46



赤谷の森でわかったこと
イヌワシの狩場創出試験
猛禽類ワーキンググループ座長　山﨑　亨

トピックス
●地域と繋がる赤谷プロジェクト
放送大学　特任教授　河合　明宣

●森とふれあう最初のいっぽ
株式会社たくみの里　総合戦略室長　本多　結

（赤谷の森の高標高域で獲物を探す雌のイヌワシ　撮影：赤谷森林ふれあい推進センター）

AKAYA no MORI ミニ写真館

今回のテーマ
「赤谷の森の白き花々」（写真：赤谷森林ふれあい推進センター）

ニリンソウ

ミズチドリ

ヒトリシズカ

ギンラン

クルマバソウ

赤谷の森でわかったこと

イヌワシの狩場創出試験

昨年6月に巣立ったイヌワシの幼鳥「ミライ」、地元新治小学校の児童が名付けました

2020年6月、赤谷の森でイヌワシの幼鳥「ミライ」が巣立ちました！

日本のイヌワシの分布域は、中小動物が多く、落葉期に狩りが可能な成熟した夏緑広葉樹林が広がり、さらに展葉期に狩りが可能な開放地（自然・人為）が存在する地域です。自然開放地は、裸地、多雪地帯の雪崩跡地、風衝地、高山帯の草地・低木群落、石灰岩地帯等です。人為的開放地は、薪炭の生産や木材の搬出等による伐採地、茅刈り場、焼畑地、採草地等で、これらの開放地が全国各地の山間部に散在していたからこそ、森林国の日本にもイヌワシが棲み続けることができたのです。赤谷の森には、高標高部に狩場となる草地や低木群落があり、谷内には人為的に創出される開放地が数多く存在していたため、イヌワシは生息・繁殖できました。

ところが、全国的にイヌワシの生息は極めて危機的な状態にあり、繁殖成功率が1980年頃から急激に低下しただけでなく、1981年からこれまでに約3割のペアが消失したとされ、現在、全国で200～250ペア程度しか生息していません。その主な原因は、1950年代から始まった拡大造林政策と戦後の燃料革命等による森林資源利用の急速な衰退に伴う植生の激変です。とくに拡大造林政策により、国土の約40％を占めるようになった人工林の多くは伐期を迎えた現在もなお伐採されずに広く山々を覆っており、多くの狩場が消失してしまったのです。赤谷でも1996年以降、繁殖成績は2014年までの19年間に4回しか繁殖に成功していませんでした。このため、赤谷の森の生態系の多様性と豊かさの象徴でもあるイヌワシの生息環境を改善するため、「狩場創出試験」を2015年から開始しました。

イヌワシの主要な行動範囲であるエリアー（3600ha）には狩りのできない人工林が約500ha存在しています。このため、人工林を自然林に戻す過程において、成熟した人工林を皆伐して狩りができる環境を継続的に創出していくとともに、最終的にはエリアーに成熟した自然林を復元することにより、人為的開放地が少なくても安定的に狩りができる環境を確保することを目指しています。狩場として利用される試験地を選定するため、①1993～95年に狩りが観察された場所②主要な移動ルートの下に位置している場所③主要な止まり場所から見える場所④営巣場所から近く、抱卵・育雛期に利用が期待される候補地を絞り込みました。そして、2015年に1次試験地として約2haの成熟したスギ林を伐採し、その後、ほぼ隔年に2次、3次と同規模の伐採を進めてきました。

その結果、2017年11月4日にはオスによる試験地での狩り行動が確認され、試験地に飛来する頻度も年々増加し（図1）、2020年は9月初旬までに試験地で獲物を探す行動が20回にも及び（図2）、幼鳥「ミライ」も飛来しました。一方、2015年以降、2016年、2017年、2020年の3回、繁殖に成功しました。さらに、2020年に利用した営巣場所は、これまでで最も試験地に近く、標高が低い場所に移動しました。これには試験地の位置が関係しているのではないかと思っています。

「狩場創出試験」は未だ6年目ですが、イヌワシの狩場環境の改善に貢献していることは間違いないと確信し、エリアーの自然林化による安定的な狩場の確保という壮大な目標に向け、挑戦を続けていきたいと思っています。

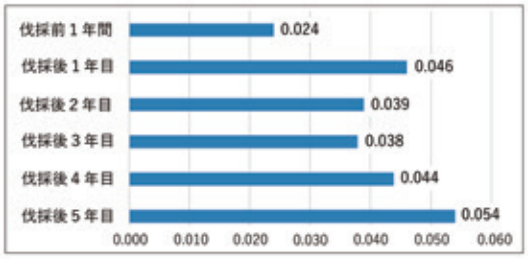


図1．イヌワシが試験地周辺に出現した頻度（出現時間／観察時間）

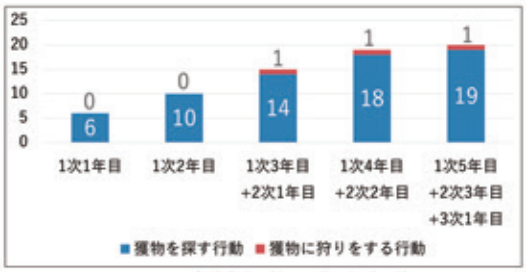


図2．1～3次試験地に対する狩り行動回数

猛禽類ワーキンググループ座長
山﨑（やまざき） 亨（とおる）

地域と繋がる 赤谷プロジェクト

放送大学
特任教授
河合（かわい） 明宣（あきのぶ）さん

自己紹介と普段取り組んでいること（仕事含む）を教えてください。

地域協議会メンバー、旧新治東峰地区に住んでいます。昨年9月の集中豪雨被害で地区上流部の人工林管理の重要性を知り、治水対策を地区の仲間と考えていきたいと思っています。

赤谷プロジェクト関係者と知り合った経緯を教えてください。

前橋転勤を機に実家に戻り、新治村の自然を守る会と、日本自然保護協会・横山さんを中心とした赤谷1ペアのイヌワシ調査に参加しました。数名で、無線機と双眼鏡を持ち、生息地のポイントに張り付いて、イヌワシを見たら、個体識別し、どのポイントからどのポイントへの飛行か、行動類型などを記録しました。2年間に及ぶ調査は横山さん編集の報告書になり、数回参加した私は、識別した各個体による生息地の土地利用がキーワードであることを学びました。教員をして、個体識別の重要性が身にしみて分かりました。

今後、赤谷プロジェクト関係者と行ってみたい企画等がありましたらお願いします。

ふれあいセンター・スタッフの方から放送大学生にプロジェクト現場で単位のついた現地研修（面接授業）を提案され、環境教育としてセンターの全面的支援を得て、毎年5月に現在まで実施し、10数回になります。これを是非、継続して頂きたいと願っています。

▲現地研修にて植生解説を受ける

▲大カツラの下で現地研修記念撮影

赤谷プロジェクトへ一言！（何でもOK！）

みなかみ町との連携強化を通し、プロジェクトの様々な具体的成果が民有林を含むみなかみ町全体へ、そして全国へと普及することが、強く望まれます。

森とふれあう最初のいっぽ

株式会社たくみの里 総合戦略室長
本多（ほんだ） 結（ゆう）

Liccaの
エッセンシャルオイル

たくみの里にある森の恵みと学びの家を、2020年7月に「森のおもちゃの家」と改称し、リニューアルオープンしました。リニューアルに際し、みなかみ町が推進する【木育】により力を入れ、町内産木材を使った『森のおもちゃ』を主とした木工商品や、森から生まれたアロマオイルなどを地元作家さん協力のもと取り揃えました。

また、施設内にはたくみの里を訪れるファミリー層や学校団体に楽しんで頂けるよう、森のおもちゃで遊べる「木育ひろば」、絵本で森の生き物や植物を学べる「生物多様性の本箱」、小さなお子様連れでも安心な「赤ちゃん休憩室」などを手づくりで整備しました。さらに、みなかみ町や自然保護協会のご協力のもと、施設の壁面にイラストや写真でみなかみユネスコエコパークと赤谷プロジェクトの活動を紹介するパネルを制作し、展示しました。リニューアル以降 、小さなお子様連れのお客様を中心に多くの方々にご来訪いただき、みなかみの森にふれて頂く機会を創ることができました。

今後は、町内の子供たち、親御さんたちにももっと気軽に立ち寄って頂き、みなかみの森に気軽にふれあえる場所になるよう、木のボールプールや町内産材で作った家具の設置、イベントの開催なども行い、たのしいお店づくりに努めてまいります。

木育ひろば

赤谷プロジェクトの活動 トピックス

R2.11.7

11月赤谷の日「ニホンジカライトセンサス」
ニホンジカの個体数把握を目的として、ライトを照射すると目が光ることを利用したライトセンサス調査を行いました。

R2.11.10

森林官養成科研修
関東森林管理局が実施する森林官を養成する研修において、赤谷センターの取り組みについて講義を行いました。

R2.11.19

群馬県立農林大学校校外学習
農林大学校森林コース2年生の校外学習の受け入れを行い、赤谷プロジェクトの取り組みについて紹介しました。

R2.12.3-4

自然環境モニタリング会議
モニタリング会議では、現地視察を含め、イヌワシ試験地の取り組みや第6次「赤谷の森管理経営計画書」等について話し合いました。

R2.12.5

12月赤谷の日「炭焼き窯の改修」
いきもの村にある炭焼き窯は、空気漏れを起こして使えなくなっていましたが、6月から改修作業を順次実施しており、この日はその続きを行いました。

R2.12.14

渓流環境復元WG
渓流環境復元WGでは、今年度行われた渓流調査の報告と今後の調査内容、今後5年間の課題等を中心に話し合いました。

R2.12.17

新治小学校6年生森林環境学習
10月に実施した新治小6年生の森林環境学習。当日児童が設置したセンサーカメラの画像等を使いながら事後学習を行いました。

R2.12.23

哺乳類WG
哺乳類WGでは、哺乳類モニタリング調査とニホンジカ捕獲試験の報告、ニホンジカの現状評価や今後5箇年の取組について話し合いました。

R3.1.14

植生管理WG
植生管理 WG は、緊急事態宣言を受けリモートで行い、今年度のモニタリング調査や、これまでの植生調査の取りまとめについて話し合いました。

赤谷プロジェクト、って？

赤谷プロジェクトは、人と自然の共生と持続可能な地域づくりをめざして活動しています。地域、自然保護団体、国有林管理者という立場の異なる三者が共に活動するという、全国的にもめずらしい取組です。

活動地域は、群馬県みなかみ町北部、新潟県との県境に広がる約1万 ha（10km四方）の国有林。ほぼ中央に赤谷川が流れることから「赤谷の森」と呼んでいます。

植物や生き物の調査・研究、環境教育、研修の受入れなど、活動はさまざま。毎月第一土曜日に行われる「赤谷の日」には、県内外のサポーターが調査や体験学習などを行っています。どなたでも参加できますので、お気軽にお問い合わせ下さい。

※トピックスの詳細は 赤谷森林ふれあい推進センター 検索

赤谷プロジェクトサポーター募集！ （たくさんの笑顔がまってます（^o^）／）

赤谷プロジェクトは、一緒に活動に加わっていただけるサポーターを募集しています。活動の中で研修の機会を豊富に用意しているため、自然や野外活動の知識や経験がないと心配される方も、学びつつ活動に参加できます。

■お問合せ先
(公財)日本自然保護協会：萩原

赤谷プロジェクトについて詳しく知りたい方はこちらもご覧ください。

林野庁関東森林管理局赤谷森林ふれあい推進センター http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会
TEL 0278-25-8777
※『森のおもちゃの家』内
理事　本多　結
メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】
TEL 03-3553-4107
プロジェクト担当　萩原　正朗
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター
TEL 0278-60-1272
所長　佐藤　健司
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp